

ワークショップのまとめ

庄内地区まちづくり協議会

①. ひなたまちづくり応援シートによる将来人口シミュレーション

庄内地区のひなたまちづくり応援シートによる将来予測では

年	2015	2020	2025	2030	2035	2035/2015
人口	7,429	7,064	6,638	6,184	5,746	77.3%

となっている。

今回のワークショップでは、乙房町・関之尾町・庄内町・菓子野町（国勢調査小地域集計）別にひなたまちづくり応援シートを作成してもらった。

年	2015	2020	2025	2030	2035	2035/2015
乙房町	2,654	2,614	2,522	2,423	2,328	87.7%
関之尾町	867	819	775	734	690	79.6%
庄内町	2,104	1,926	1,750	1,564	1,399	66.5%
菓子野町	1,804	1,697	1,586	1,459	1,333	73.9%

町別にばらつきが見られる。感想としては

乙房町：どんどん家が建っている。小学生の数が増えているのに予測では減。

関之尾町：人口が減っている。川崎はまだいいが関之尾は小学生が少ない。

庄内町：空き家が目立つが新しい家も建っている。それでも庄内地区で減少率が一番高い。

菓子野町：新しい家も建っているが予測ではきびしい。

2019.10.1 現住人口を使ってシミュレーションの検証

年	2015 実数	2019 予測	2019 実数	差	
乙房町	2,654	2,622	2,672	+50	予測より大幅増
関之尾町	867	829	797	-32	予測より大幅減
庄内町	2,104	1,962	1,945	-17	予測より減
菓子野町	1,804	1,718	1,726	+8	予測より微増
庄内地区	7,429	7,131	7,140	+9	ほぼ予測通り

※2019 年予測は 2015 年と 2020 年の予測の差から単純年平均を計算して出した

2019 年実数は都城市の 2019.10.1 現在現住人口（推計人口）

乙房町：シミュレーションでは人口減だが、逆に増えている。

関之尾町：シミュレーションに外国人労働者（20－30 代女性）が影響しているのでは。

庄内町：都市機能誘導区域・居住誘導区域なのに人口減が止まらない。対策が必要。

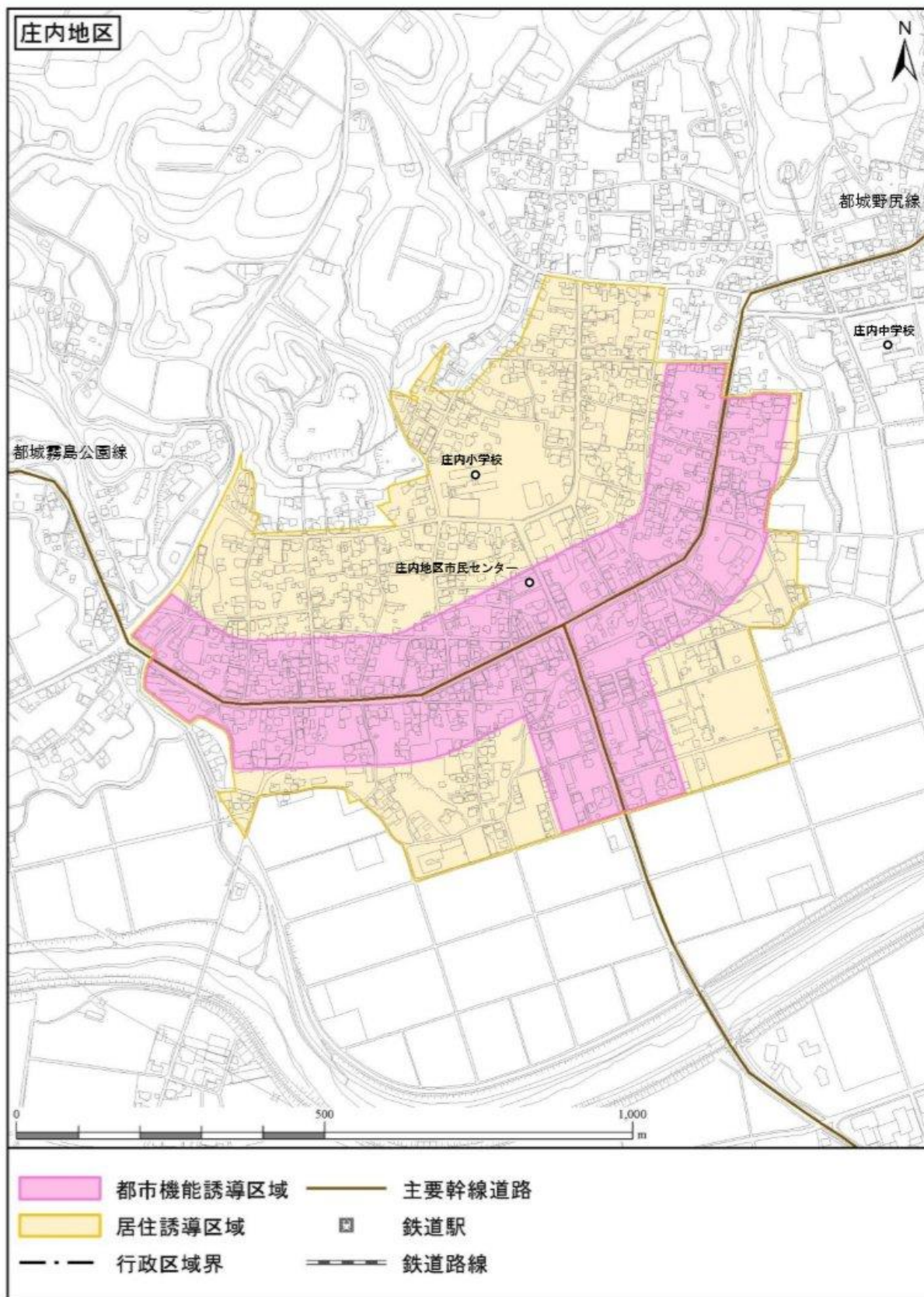
菓子野町：シミュレーションより微増。

参考

都城市立地適正化計画（平成 31 年 1 月）

都市機能誘導区域（平成 29 年 3 月公表） 居住誘導区域（平成 31 年 1 月公表）

7 庄内地区



②.「地域内住民の交流の場、集う場づくり」の先行事例

乙房自治公民館の事例

- ・ オッシャー・ベリーハウス（支え隊 36 名）代表：小久保鈴子さん
下記 4 カ所で月 1 回開催中、利用者 80 名弱、参加費 200 円、会員も払う
高齢者も子どもも参加できる
 - ①. 馬場分館・・・今ヶ倉邸で開催、班長満行さん
 - ②. あざめ分館・・・班長益留さん
 - ③. 内場分館・・・班長乙守さん
 - ④. 今平分館・宮源分館（今平分館で開催）・・・班長時任さん
- ・ まるベリー（公民館・民生児童委員・壮年・こども園など）の活動
乙房全体の課題や将来構想などを話し合うグループ・・・ワークショップはグッドタイミング
引きこもりがちな高齢者の見守りや交流から始まった＞世代間交流（子どもの参加）
次のステップとしては高齢者の「生きがいづくり」
スカットボール、グランドゴルフなど軽スポーツはあるが、自分で作った野菜などを地域の人に提供することで生きがいづくりにつながる＞直売所構想
- ・ 今平（いまでら）地区のおとめ会」の活動
新聞記事参照
- ・ 壮年会員の活動
60 名以上の会員、小学生と一緒に「はがま」による炊き出し訓練（災害時を想定）など

まとめ・・・高齢者も多いが支える年代層も多い＞動き始めている

NPO法人手仕事舎そうあい&都城高専建築科杉本研究室の事例・・・もちなが邸を中心として

2017 年 7 月ウッドデッキの制作
2017 年 8 月子ども工作教室・夏休み宿題お助け隊
2018 年 8 月子どもの遊び場「ツリーハウス」制作
2018 年 8-9 月庄内町居住者アンケート実施
2018 年 12 月庄内蔵小屋「KOSEN塾」開講（月 2 回開催）
2018 年 12 月庄内町活性化プロジェクト研究発表、杉本准教授講演「みんなでまちを考える」
2019 年 2 月そうあいべっぴんシェアの会で研究発表など
2019 年 3 月社会実装教育フォーラムで庄内町活性化プロジェクトの研究発表
2019 年 3 月茶室「瑞芳庵」完成、高専茶道同好会のお茶会開催
2019 年 4 月和田邸隠居をリノベーション「かけるくんのうち」に長友君居住開始
2019 年 7 月南洲神社六月灯に合わせ風鈴棚展示
2019 年 8 月木工・工作教室

- ・ 庄内地域情報誌「C o 住創」を 2019 年 1 月創刊号から現在 4 号まで発行。
<http://www.bonchi.jp/shonai/documents.html> に収録

・「かけるくんのうち」の事例

2019年4月から西区和田輝男さん宅のお母さんの居宅（隠居）を片付け、都城高専建築科専攻生長友駆君が賃貸で入居。専攻科に進学すると寮を出なければならない。部屋のリフォーム（リノベーション）を都城高専杉本研究室の仲間と実施中。西区六月燈やクリスマスイルミネーション、クリスマスパーティーなど地域の人を巻き込みながら活動中。

部屋は5部屋くらいあるので、高齢者や子どもたちの立ち寄れるスペースにもできる。またシェアハウスも考慮中。

まとめ・・・都城高専建築科杉本研究室（杉本弘文准教授）の社会実装教育の一環として活動中

※社会実装教育・・・地域ニーズに基づく課題の解決及び地域貢献を主題として、社会実装力を身につけた創造性豊かな高度なエンジニアの育成を可能とする教育システム

こけないからだづくり講座開催（庄内地区13ヵ所実施中、週1回開催）

それぞれに血圧計、ラジカセ、スカットボールを配置。講座のあとにスカットボールやミニボーリングをしたり、お茶を飲んだりしているところもある。

登録者数：373名

乙房自治公民館

あざめ分館（乙房）

平田自治公民館

上平田公民館

川崎自治公民館

上川崎公民館

関之尾自治公民館

西区自治公民館

町区自治公民館

東区自治公民館

今屋自治公民館

千草自治公民館

宮島自治公民館

社会福祉法人常陽社会福祉事業団の構想

令和2年4月より小規模多機能居宅介護事業を開始

場所は白寿園東側（旧創生館あとに新築中）

ディサービス、ショートスティ、ヘルパーのサービスを行う

利用者登録制最大29名まで

都城市内7ヵ所（包括支援センターの場所？）

登録利用者以外でも利用できるシルバーサロンを考えている

土間があり、お茶飲みや話ができるスペースを作る

子供も宿題など利用できる

野菜などの販売もできる？



郡城市の「房自治公民館」今平分館長(松元正喜さん)は、地区の女性でつくる自主グループ「おとめ会」が企画する多世代交流イベントに毎年回参加する。「二生簗地区を引く張る女性陣や、ひ孫の参加者も増えている」と、自治会活動に

参加者 松元 正喜さん



「おとめ会のパワーに元気をもらおう」と話す松元正喜さん

多彩な企画に感謝

いそし。2年前に今平分館長となり、一斉清掃の意義をとり地区の相談役になったりと地域に心を配る。松元さんによると、同地区は現在5世帯。世代交代が進んでいる上、転入する世帯もあり、住民間の交流がより大切になってきた。「誰しも参加できるイベントを企画してくれたい」と話す。分館としても運営費の一部を補助するなど、物心両面で支援する。「おとめ会が火を付けくれ、地区の若い世代がさらに集まり、盛り上がりてきた。今後がさらに楽しみです」と期待を語った。

活動情報

「おとめ会」では、今平地区の住民が助け合い、寄り合い、支え合いながら地区全体がつながっていくことを目指し、節分や十五夜祭など季節行事を開いている。今月には、郡城市で開かれた地区対抗の駅伝大会にも初めて参加。来年2月には節分イベントを企画している。

郡城市の房町の今平地区では、住民の女性が「おとめ会」と称する自主グループをつくり、花見など多世代の交流行事を企画している。今月22日には「房町多世代の交流行事」を開催。会場となった「房自治公民館今平分館」は、赤ちゃんと高齢者まで約80人に参加した。「よいしょー」「もーと振り上げろー」。大人の掛け声に合わせ、子どもたちは元気よく餅をつく。シニア世代は慣れた手つきで臼の餅をひっくり返したり、次々と餅を丸めたり。約2時間で、10升分の丸餅が完成した。

地区全体が「大家族」に



餅つきなど企画・おとめ会(郡城市)

餅つき後の食事会では、参加者が「おいしい」「喉に詰まらせん」といふ言葉を聞きながら、出来たてを頬張った。この日は、おとめ会のメンバーらが手作りの豚汁やゆづい、こんにゃく料理なども振る舞った。

この房小2年の丸餅は、(8)は「なかなかの職人さん。餅つきを、近所の人々もたのびました。今年はいまを教えてもらいたい」と笑顔。近くに住む王時さん(88)は「おとめ会の交流会

が毎回楽しみ。地域の人の顔を多く見ると心になるし、認知症予防にもなるから必ず来ます」と意気。

「おとめ会」は約3年前、地区の約60代女性約10人で結成した。メンバーの相良節代さん(55)は「地区で何か一緒にできればと歩いて行けるくらい距離にいる女性たちで集まった。会費もいらない気軽な会」と話す。自身は「ゴスロリ美魔女講座・キャサリン」や、郡城市PR大使として活動し、おとめ会でも盛り上げ役を務める。



つきたての餅を協力しながら丸める住民ら＝郡城市・乙房自治公民館今平分館

住民間の緩やかな会話が、企画は多岐。4月には地域の高齢者に教してもらいながら郷土料理「おね」を作り、花見を楽しんだ。相良さんは「家庭ごとに味が違う『おね』の作り方を地域の人に教える貴重な機会だった」と振り返る。

11月には介護と看取りがテーマのセミナーや映画上映。さらに今年からは、イベントの様子を写真付きで紹介する『今』を『平』欄に生かす「大家族」を発信し、回覧板で全戸に配るなど積極的に活動する。

乙房町議会議員の馬場真実さん(55)は「こうでも高齢者の食事交流会などを開くが、地域全体で集まる機会をつくらせてくれるおとめ会の存在は強い」と話す。相良さんは「みんなが顔見知りになり、住んで良かったと思えるような活動が続けたい」と語った。(徳島県報)

＝第4曜日掲載＝

